

シンポジウム15

運動器のトータルケア： 骨強化と転倒予防実践マニュアル

【リハビリ委員会企画】

日時	2026年9月11日(金) 16:35～18:05
会場	第5会場（3F 中会議室301）
座長	宮腰 尚久（秋田大学大学院医学系研究科整形外科学） 本郷 道生（秋田大学保健学専攻理学療法学講座）

セッション概要

骨強化と転倒予防を一体で捉える運動器トータルケアの実践指針を共有するセッション。ライフステージ別の運動療法、病院・施設内の転倒対策、地域・介護でのリハビリ、椎体骨折後の姿勢改善、FLSでの多職種介入まで、現場で使えるエビデンスを整理する。

演題プログラム

1-SY15-1	閉経前・閉経後の骨密度増加と維持のエビデンスと運動療法の実際 ～学童期から更年期まで～ 熊木 光包（サンライズ酒井病院整形外科） 最大骨量獲得のための運動習慣の重要性を軸に、レジスタンス運動や荷重運動など骨密度増加に有効な運動をライフステージ別に整理し、啓発の要点を解説する。
1-SY15-2	病院・施設内転倒の実態とエビデンス 井上 達朗（新潟医療福祉大学 リハビリテーション学部 理学療法学科） 病院・施設内転倒の発生要因と包括的リスク評価を概説し、患者・スタッフ教育の有効性などの最新エビデンスと転倒予防実践マニュアルを紹介する。
1-SY15-3	地域・介護領域でのリハビリテーション 村山 拓也（新潟リハビリテーション病院リハビリテーション部作業療法科） 介護保険制度下の自立支援と重度化予防の視点から、骨粗鬆症治療と転倒予防を本人が望む活動の獲得につなげる医療介護連携とマネジメントを解説する。
1-SY15-4	骨粗鬆症性椎体骨折・脊柱変形のリハビリテーション 本郷 道生（秋田大学保健学専攻理学療法学講座） 椎体骨折後の脊柱後弯がQOLや転倒に及ぼす影響を示し、急性期の安静管理と慢性期の低負荷背筋力増強運動を中心とする段階的リハビリを解説する。
1-SY15-5	骨折リエゾンサービスにおける大腿骨近位部骨折患者の多職種リハビリテーション 田中 雅博（社会医療法人生長会ベルビアノ病院整形外科骨粗鬆症センター） 二次性骨折予防継続管理料やFLSクリニカルスタンダードを踏まえ、大腿骨近位部骨折患者への運動・栄養・口腔を含む多職種介入のあり方を解説する。
1-SY15-6	地域高齢者における転倒予防とロコモ、フレイル、サルコペニア対策について 松本 浩実（川崎医療福祉大学 理学療法学科） ロコモ・フレイル・サルコペニアと転倒・脆弱性骨折の関連を整理し、国際ガイドラインに基づく多面的介入や筋力・バランス訓練の実践例を示す。